



社会福祉法人愛篤福祉会は、利用者さんが安心して暮らせる施設づくりを目指します

音楽の力・文化の極み



表題で大きな表現をしてみました。力ある音楽を聞くと、それは間違いではなかったと心が感じる時があります。

先日事業所の夏祭りイベントがあり、今年法人理事に就任した津軽三味線日本一の奏者である「あべや」さんが急遽ミニコンサートを開催してくれました。スピーカーなしの生音演奏でしたが、それが逆に力強さを感じさせ、一曲目から利用者の皆さんは大興奮でした。勿論、参加された皆様も同じ気持ちだったのではないかと思います。

心の豊かさというのは、目の前にある物事をどのように受け止めるかではないかと最近特に思います。蟬の鳴き声、では現象ですが、蟬の合唱、となればそれは心を豊かにする音楽となります。綺麗ごとかも知れませんが耳が聞こえず、しゃべる事が出来ず、動くことが出来なかったとしても、心に響き震わせる音があれば、それは紛れもない音楽であり、人が誇りを持ってよいまさに文化の極みだと思います。今回のイベントのように、利用者の皆さんや法人に関わる方々が音楽にふれ心豊かになる機会を作れば、それは私達職員としても誇りをもって行事に取り組んでいけると思っています。今後ともイベントへのご参加をお待ちしております。

ヒロシマ・ナガサキ

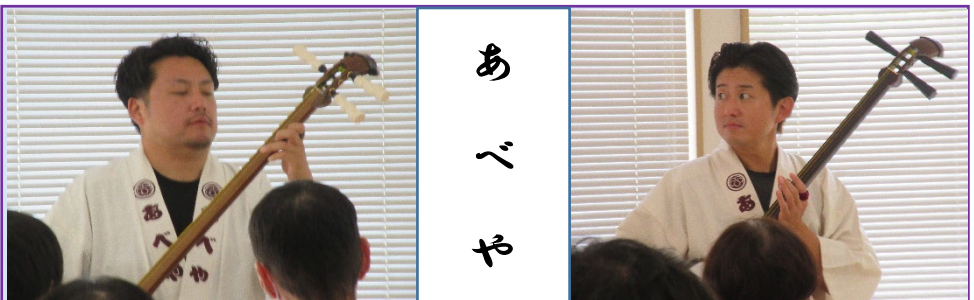
先日アメリカの意識調査で、80年前原爆を落としたのは正しかったかどうかを問う質問に対して35%が正当化できると答えたそうです。多いか少ないかは各人の気持ち一つなのですが、10年前にこの質問をした時は正当化できると答えた人は56%だったそうです。

戦争や災害の記録は被害を受けた方には多くのトラウマを残します。ただ、それらの記憶が風化あるいは知らない世代にとっては、2度と起こさない為の教訓と知識になります。その時に生きていた者は次の世代に語り繋ぐという義務があるように思います。間違いを知る事や、後悔から反省をし改善をすることができれば、戦争は本当にただの悲惨な出来事に成り下がる事でしょう。戦争がいけない、なんて言葉は溢れていますが、戦争を主導する国は現実には、世界規模でみれば戦争は減っていません。そんな中で憲法で戦争を否定し、他国に文句を言われようと、80年戦争を行わなかった日本。それを続けるきっかけとなった大きな犠牲は、やはり忘れてはいけない事だと思います。心からの黙とうを捧げます。

看護職員から

まだまだ、残暑が厳しい中ですが、朝晩は涼しく寝苦しい日もだいぶ少なくなりました。この頃になると、夏の溜まった疲れがどっと出始める時期にもなります。夏バテしないように規則正しい生活を送りましょう。

今年は、新型コロナウィルスに加え、インフルエンザももう流行しているそうです。十分な感染対策も行っていきましょう



あ
べ
や

ミニコンサート開催

8月23日、日本一の奏者の旋律が、40分間事業所の中に鳴り響きました。目だけで合図をおくりあいながらの阿吽の呼吸からかき鳴らされる津軽三味線の音は、初めての方も経験済みの方も共に心に染み入ったのではないかと思います。今後もこのような機会をもうけ、愛篤福祉会に関わっていく方々と交流を深めていきたいと思っています。

<寄付・物品寄贈の皆様> 株式会社 愛夢 様 杉本竹彦 様 くすりのマルト 様 あべや 様 阿部園美 様
 小野美津子 様 曳地令子 様 遠藤和子 様 大平嘉人 様 永山ぶどう園 様 太田幸夫 様 遠藤節子 様
 渡辺和子 様 根本フク子 様 佐藤正輝 様 草野利江 様 <順不同です> ありがとうございました。